

施策評価表

施策番号	- - 14	重点プラン	-	施策名	確かな学力の育成をめざした教育の推進	所管課	学校教育課	関係課		
------	--------	-------	---	-----	--------------------	-----	-------	-----	--	--

1. 施策の概要

対象	和光市立小・中学校の児童生徒
目的	学習指導要領に基づく教育課程の確実な実施と教員の指導力の向上を図り、習得した知識技能を基に、よりよく問題を解決していく確かな学力を身につけた児童生徒を育成します。
現状 (計画策定時)	本市の児童生徒の学力状況は、国や県の学力に関する調査結果の分析では、国や県を上回っているものの、学習に対する関心が低くなっている傾向にあります。また、学力の二極化も生じており、基本的学力が定着できていない児童生徒も見受けられます。退職する教員の増加により、現在、経験年数5年未満の割合は23%に上り、今後も教職経験の少ない教員の割合の増加が予想されます。
課題 (計画策定時)	学習の大切さを自覚し、進んで学ぼうとする児童生徒の割合が減少しており、児童生徒の学習に対する関心を高める取組が必要です。また、退職する教員の増加により、学校内での指導技術の伝承が難しい状況の中で、児童生徒の基礎基本の定着、学力を更に伸ばす、個に応じた対応が求められています。

2. 施策指標の達成度(定量的評価)

計画 施策に 基づく	指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値 に対する進捗率 (%)
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
計 画 指 標	学習への関心度	%	年度	目標値	90.0	90.0	90.0	90.0	95.0	98.0	103.2	
				実績値	85.2	92.0	98.0					
計 画 指 標	学習教室参加人数	人	年度	目標値	2000.0	2000.0	2000.0	3500.0	4000.0	57.1		
				実績値	2819.0	1800.0	2000.0					
計 画 指 標	教員研修会参加人数	人	年度	目標値	600.0	600.0	600.0	80.0	90.0	750.0		
				実績値	60.0	500.0	600.0					
補 足 指 標			年度	目標値								
				実績値								

施策指標の達成度に関する評価	理由
A 目標をほぼ達成する B 目標をやや下回る C 目標を下回る D 目標を大幅に下回る	A 個に応じた指導が進められている。

3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組 番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業 評価結果	事業費									今後の方向性		
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・ 解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事 業の妥 当性	優先度	
								総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)		1次 評価	2次 評価
分かる授業、楽しく学べる授業づくり	ALTによるネイティブな言葉を通して、充実した外国語活動が推進できている。情報活用能力の向上が図れてきている。	平成23年度は図書館アドバイザーの日数が減少し、その分学校の職員が対応したが、負担は大きい。高度情報化社会に対応するため、新しい情報や機器の研修等が今後も必要である。	児童教育活動	学校教育課	このまま継続	62,431	0	62,431	55,150		55,150	64,072	0	64,072	A	B			
			生徒教育活動	学校教育課	このまま継続	27,698	363	27,335	22,940		22,940	26,813	390	26,423	A	B			
			英語教育推進	学校教育課	改善して継続	30,362	1,492	28,870	28,348		28,348	27,972	0	27,972	A	B			
			コンピュータ教育推進(小学校)	学校教育課	このまま継続	64,376	0	64,376	56,094		56,094	61,084	0	61,084	A	C			
			コンピュータ教育推進(中学校)	学校教育課	このまま継続	24,864	0	24,864	21,438		21,438	22,990	0	22,990	A	C			
			小学校図書教育推進	学校教育課	このまま継続	14,313	0	14,313	5,878		5,878	4,000	0	4,000	A	B			
			中学校図書教育推進	学校教育課	このまま継続	5,451	0	5,451	2,121		2,121	1,500	0	1,500	A	B			
			学校衛生管理	学校教育課	改善して継続	10,643	0	10,643	10,467		10,467	13,184	0	13,184	A	B			
			児童衛生管理	学校教育課	このまま継続	17,037	0	17,037	16,123		16,123	17,343	0	17,343	A	B			
			生徒衛生管理	学校教育課	このまま継続	6,492	0	6,492	6,487		6,487	7,402	0	7,402	A	B			
			教育扶助(小学校)	学校教育課	このまま継続	15,111	277	14,834	14,566	327	14,239	17,446	151	17,295	A	A			
			教育扶助(中学校)	学校教育課	このまま継続	16,754	347	16,407	18,288	249	18,039	23,536	164	23,372	A	A			
			個に応じた指導の充実	少人数指導教員並びに、和光市学力向上支援教員の活用により、個々に応じた指導が充実されてきている。学習状況調査等において結果の数値が上がっている。	休み時間や放課後を活用して、基礎基本の徹底を図るとともに、長期休業中に行われている「算数教室」などを、今後も充実させていく必要がある。	児童教育活動(重複)	学校教育課				0		0						
生徒教育活動(重複)	学校教育課							0		0									
								0		0									
								0		0									
								0		0									
教職員の指導力の向上	各学校毎に委嘱研究を行っており、公開授業を行う学校が増えている。また、教科等毎に主任会を中心に研修を行うことで、指導力の向上を図っている。	各教科において定期的な主任会を実施していく必要がある。	教職員研究・研修	学校教育課	改善して継続	856	0	856	734		734	864	0	864	A	C			
			教科書採択替えによる教師用教科書・指導書整備	学校教育課	このまま継続	0	0	0	23,978		23,978	16,625	0	16,625	A	B			
								0		0									
								0		0									

施策評価表

施策番号	- - 14	重点プラン	-	施策名	確かな学力の育成をめざした教育の推進
------	--------	-------	---	-----	--------------------

所管課	学校教育課	関係課			
-----	-------	-----	--	--	--

4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	学力支援教員等の活動が充実してきて、学力向上につながってきている。
A	
当市のサービス水準	理由(近隣他市との比較)
A 高い B 普通 C 低い	市費職員が充実している。図書館アドバイザーの充実が必要である。
A	

5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等)【1次評価(所管課)】

1次評価	市費採用職員並びに環境整備を充実させ、児童生徒の生きる力、学力向上につなげる。	対象者の方向性(増減)(%)	基本目標に対する貢献度
		100	A

6. 今後の施策の方向性【2次評価(行政評価委員会)】

2次評価	他市との比較において非常に高い水準にある。しかし、限られた人員、予算の中での今後の資源配分を考えるならば、現状の高い水準を維持しつつも水準、コストについて一定程度下げることが検討すること。	サービス水準		コスト
		現状	方向性(目標水準)	方向性
		A	(A)	

7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準	コスト	コメント
現状	方向性	
B		

(サービス)学力向上を更に進める。(コスト)コンピューター推進事業(中学校)についてはリース料が減額となるため、教科書採択替え教師用教科書・指導書整備事業については購入する指導書が減少するため、事業費を減額とする。

施策評価表

施策番号	- - 16	重点プラン	施策名	よりよく適応するための支援体制づくりの推進	所管課	学校教育課	関係課			
------	--------	-------	-----	-----------------------	-----	-------	-----	--	--	--

1. 施策の概要

対象	和光市立小・中学校の児童生徒
目的	子どもたちが将来に展望と意欲を持ち、社会に適応できるよう、充実した学校生活を実現します。
現状(計画策定時)	本市では、教育支援センターを中心として、教育相談員を配置し、児童生徒の充実した学校生活が送れるよう支援しています。本市の児童生徒の状況としては、小1プロブレム、中1ギャップ問題など上級学校に入学した子どもたちが、それぞれの学校にうまく適応できない状況が見られます。特に、市内中学校における不登校生徒数は他市平均に比べ高くなっています。また、発達や就学に関する悩みを持つ保護者も増加しており(センター延べ件数のうち、発達に関する相談は平成20年度延べ631件、平成21年度延べ978件)、さらに、発達障害の児童生徒への対応に苦慮する教職員の増加などがあげられます。
課題(計画策定時)	幼稚園・保育園・小中学校・高等学校及び関係機関との連携が十分ではなく、子どもたちが上級学校の生活や学習を知るための情報提供の場と交流の機会確保が必要です。また、不登校の児童生徒の学校復帰のための支援や教職員の児童生徒への対応についての支援が必要です。さらに子どもたちの将来に対する目的意識が低くなっており、目的意識を高めることが必要です。

2. 施策指標の達成度(定量的評価)

計画策定時	指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値に対する進捗率(%)
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
計画策定時	中学校不登校者割合	%		2.7	2.8	2.4	2.6			2.5	2.0	104.2
	相談件数	件		3200.0	2317.0	1741.0	3000.0			3800.0	3800.0	45.8
	適応指導教室児童生徒の学校復帰率	%		71.0	54.5	77.7	80.0			100.0	100.0	77.7
補足指標				目標値								
				実績値								
				目標値								
施策指標の達成度に関する評価											理由	
A 目標をほぼ達成する B 目標をやや下回る C 目標を下回る D 目標を大幅に下回る				B		相談件数については、各学校での相談活動が充実しているため、減少している。						

3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業評価結果	事業費						今後の方向性						
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事業の妥当性	優先度		
								総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)	総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)	総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)		1次評価	2次評価	
	関係機関との連携の強化	各学校の教育相談員やさわやか相談員、スクールカウンセラーとの情報と支援方針の共有を図った。これにより、相談体制は充実し、学校の中で解決が済むものとセンターが中心となって関係機関と連携を図るケースの見極めがつかようになった。医療機関や特別支援学校との連携により、解決の難しいケースの解決を図っている。	就学前の相談を行っている市役所内の部署との更なる連携を深める必要がある。	教育支援センター・特別支援・適応支援	学校教育課		このまま継続	63,070	5,012	58,058	60,956	3,420	57,536	66,790	4,365	62,425	A	B		
				幼保小連携推進	学校教育課		このまま継続	0	0	0	5		5	50	0	50	A	B		
	各園・学校の情報提供と交流会の推進	月に1度の就学支援委員会・学期に1回の特別支援教育コーディネーター会議や不登校対策委員会において、各学校の支援の取組状況を共有している。		教育支援センター・特別支援・適応支援(重複)	学校教育課															
				幼保小連携推進(重複)	学校教育課															
	小中学校におけるキャリア教育の推進	小学校においては、各教科等にキャリア教育の視点を入れた全体計画の作成、実践に取組むことができた。中学校においては、職場体験やふれあい講演会等、将来の生き方を見通したキャリア教育が進められた。	各校において、推進組織体制の構築を進めていく。	人件費以外予算を伴わない取組																
	相談しやすい環境の整備	来所・電話による相談ができ、土曜日支援センターが午前中開いている。また、大学の准教授、臨床心理士が2名、教育相談担当専門員が3名で対応にあたり、丁寧な相談が実施できている。		教育支援センター・特別支援・適応支援(重複)	学校教育課															
	個々のケースに合わせた支援の実施	保護者、本人、担任への支援など多方面にわたる方策を考え提案を行っている。教育・医療・福祉の多岐にわたる支援が必要なケースもあり、各機関との連携の充実を図っている。	学校での適応状態の向上には、学校における支援の実施が不可欠であるが、センターや適応指導教室が提示した支援方法の活用されたか確認するなど学校との継続的な連携については課題である。	教育支援センター・特別支援・適応支援(重複)	学校教育課															

施策評価表

施策番号	- - 16	重点プラン	-	施策名	よりよく適応するための支援体制づくりの推進
------	--------	-------	---	-----	-----------------------

所管課	学校教育課	関係課			
-----	-------	-----	--	--	--

4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価		理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	A	教育・医療・福祉等多岐にわたり、支援するために関係機関、関係各課との連携を図っている。
当市のサービス水準		理由(近隣他市との比較)
A 高い B 普通 C 低い	A	特別支援並びに幼・保・小連携推進の内容は他市より優れている。

5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等)【1次評価(所管課)】

1次評価	幼・保・小連携の充実とともに、支援体制を充実させていく。	対象者の方向性(増減)(%)	基本目標に対する貢献度
		100	A

6. 今後の施策の方向性【2次評価(行政評価委員会)】

2次評価	他市との比較において非常に高い水準にある。しかし、限られた人員、予算の中での今後の資源配分を考えるならば、一定の水準を維持しつつも、現状と比較して、サービス水準、コストを下げることも検討すること。	サービス水準		コスト
		現状	方向性(目標水準)	方向性
		A	(B)	

7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準	コスト	コメント
現状	方向性	(サービス)求められるレベルも高く、引き続き高い水準での支援体制を実施する。
A		

施策評価表

施策番号	- - 18	重点プラン	-	施策名	安全でおいしい学校給食の充実	所管課	学校教育課	関係課				
------	--------	-------	---	-----	----------------	-----	-------	-----	--	--	--	--

1. 施策の概要

対象	和光市立小・中学校児童・生徒
目的	児童生徒が生涯にわたり健康で心豊かな食生活を送るため、学校給食を通し食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけます。
現状(計画策定時)	本市では食器は安全で温かみのある強化磁器の導入を進め、食環境を整えるとともに、季節感あふれる地場産野菜の使用や、お楽しみ献立などを取り入れ、児童生徒が楽しく給食を食べられるよう献立の充実を図っています。また、児童生徒に衛生的で安全安心な学校給食を提供するために平成12年度からドライシステムを取り入れた給食施設の整備を行っています。
課題(計画策定時)	食育への関心が高まる一方で、本市の農地面積は年々減少しており、将来的に地場産野菜を安定的に確保していく手だてが必要となります。また、安全安心な学校給食を提供するため老化への対応や児童生徒の増加により手狭になる作業スペースの確保など、給食施設を学校給食衛生管理基準に基づいた衛生的な給食施設に改築していくことが課題です。

2. 施策指標の達成度(定量的評価)

計画策定時	指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値に対する進捗率(%)
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
計	地元産野菜使用率	%	目標値 実績値	30.7	30.8	30.7	30.8			31.0	32.0	90.0
				30.5	23.5	27.9						
指	給食の残渣率	%	目標値 実績値	7.4	7.4	7.4	7.4			7.3	7.2	82.0
				7.4	7.4	8.9						
標	米飯給食実施回数	回	目標値 実績値	3.2	3.2	3.2	3.2			3.5	4.0	91.4
				3.0	3.1	3.2						
補			目標値 実績値									
施策指標の達成度に関する評価											理由	
A 目標をほぼ達成する B 目標をやや下回る C 目標を下回る D 目標を大幅に下回る				A								

3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業評価結果	事業費						今後の方向性						
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事業の妥当性	優先度		
								総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)	総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)	総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)		1次評価	2次評価	
食育の推進	食育の一環として、食環境を整え、楽しく食事をするために給食用食器を平成19年度からアルマイトから強化磁器に変更。21年度までに白子小・新倉小・第三小・第四小・大和中・第三中に導入。	財政上の事情により22年度から事業は凍結となり小学校4校・中学校1校が未導入となっている。	学校給食業務	学校教育課		このまま継続	313,073	0	313,073	322,102		322,102	323,681	0	323,681		A	B		
			学校給食強化磁器導入	学校教育課	凍結	-			0			0	0	0						
給食施設の改修	安全安心な学校給食を提供するため老化した給食施設を平成12年度からドライシステムの施設に建て替え併せて強化磁器の導入を図ってきた。	財政上の事情により、築年数41年の第二中学校の給食施設改築が先送りとなっている。	給食施設整備	学校教育課		-			0			0	4,620	4,200	420		A	B		
			給食用備品整備	学校教育課		改善して継続	7,646	0	7,646	1,143		1,143	1,680	0	1,680		A	B		
			給食安全衛生管理	学校教育課		このまま継続	11,606	0	11,606	11,582		11,582	12,063	0	12,063		A	B		

4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	給食施設の改築や強化磁器の導入等、事業の先送りや凍結等の課題はあるが、その他の事業はほぼ順調に進んでいる。
当市のサービス水準	理由(近隣他市との比較)
A 高い B 普通 C 低い	近隣他市と比較してサービス水準は標準と思われる。

5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等) [1次評価(所管課)]

1次評価	課題としている事業の内容を再度検証しながら推進する。	対象者の方向性(増減)(%)	基本目標に対する貢献度
		100	A

6. 今後の施策の方向性 [2次評価(行政評価委員会)]

2次評価	当面、現状の自校方式を維持するならば、施設整備計画等について抜本的な見直しを行うとともに、更なる効率的、経済的な事業運営体制を検討すること。	サービス水準		コスト
		現状	方向性(目標水準)	方向性
		A	(A)	

7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準	コスト	コメント
現状	方向性	方向性
A		